

2020年度 苓龍苑 事業報告書

全般について

【生活介護・施設入所支援・短期入所】

2020 年度も新型コロナウイルス感染症予防を最重要課題として取り組み、施設内のあらゆる活動に伴う 3 密や飛沫感染防止の徹底を図る為、手すりやドア等の消毒、食堂ホールや面会場所へのアクリル板の設置、職員の出勤前後の検温、手指消毒の徹底等を行いました。又、毎週月曜日の定例会議にて「新型コロナウイルス感染症対策会議」を開催し(令和 3 年 3 月末現在 69 回の実施)熊本県内及び九州圏内、国内の感染状況を把握し、それに基づいた利用者支援や職員一人ひとりが「コロナに罹らない」「施設に持ち込まない」の意識の下、感染防止に努めました。

また面会、外出、外泊等の自粛要請によりご利用者やご家族、職員をはじめ多くの方のご協力をいただき感染予防が図られました。感染防止対策の長期化に伴い、利用者の負担や苦痛が考えられるため、ふれあい公園を活用した散策や出前やテイクアウトを利用し施設内での喫食を楽しんでももらいました。

サービス提供においては、利用者個々の特性に応じた個別支援計画書に基づき、笑顔と思いやりの心で、医療・介護・訓練・生活・食事提供支援等の充実を図ると共に丁寧な対応を心がけ実施しました。

特に日々の体調の変化が著しい重度の利用者に関しては、職員間の連携を深め、常に「気づき」の目で観察を行い体調の変化等においては適宜、ご家族への報告・連絡・相談を行い情報の共有を行いました。また、利用者の入院も多く、病院と家族との調整や入院中の様子伺いなどの支援を行いました。

今年度の新規入所者は 6 名、退所者は 6 名、2020 年度末現在で 38 名（男性 31 名、女性 7 名）の方が利用されました。平均障害支援区分は 5.6 であり重度な方が大半となっています。地域で生活されている方への生活介護事業や短期入所事業においてはニーズに応じた必要な支援を行いました。生活介護については 2 名、短期入所については 3 名の方が利用されましたが、地域の感染状況を把握し状況によっては個室での活動内容を提供し入所ご利用者との接触を極力減らす等、感染予防策を徹底しました。

人権擁護・虐待防止については委員会を中心に年 3 回人権標語を作成し普段からの意識付けを行いました。また、職員のメンタルヘルスケアとして、セルフチェックアンケートを年 2 回実施し人権擁護への理解を促しました。

今年度は苦情・相談に対する「満足度調査委員会」を立ち上げ困りごとや要望等に対応しました。

職員研修については、ほとんどの外部研修が新型コロナウイルス感染症対策に伴い、中止や不参加となる中、新しい手法としてオンライン研修が取り入れられ参加しました。

施設の防災面においては、火災発生時の避難訓練として昼夜想定で 2 回予定してましたが新型コロナウイルス感染症予防の為に中止し、施設内の消防設備に係る勉強会を 1 回実施しました。また、地震を想定しシェイクアウト訓練を 1 回実施しました。利用者、職員危機意識をもって真剣に取り組むことができました。